

# ほっかいどう NIE・通信

Newspaper in Education 教育に新聞を



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内  
TEL 011-210-5802 FAX 011-210-5826

## 推進協総会

# 実践校に認定書

## 全国最多の41校に伝達

北海道NIE推進協議会(会長・山田家正北海道開拓記念館館長)の2005年度総会が5月28日、北海道新聞本社で開かれ、教育関係者や新聞社の代表ら約70人が参加。議事に先立ち、本年度NIE実践校への認定書伝達式が行われた。道内の実践校数は、日本新聞教育文化財団が認定した35校と北海道の独自認定6校の合わせて41校。東京都の34校を上回り、都道府県別で全国最多となる。

新聞各紙が一定期間、枠に加えて、北海道NIE推進協の自主財源を無償提供されるNIE実践校は、日本新聞教育文化財団(日本新聞協会加盟の新聞社や通信社で組織)を窓口とした「全国」

教育には「不易」の部分と「流行」の部分がある。読み書き計算はもちろん前者だ。NIEはどうだろう。5月29日付け道新の朝刊に、M札幌「新聞音読で『脳力』」

音読を重視している私にとっては、是非子供たちに読ませたい記事内容であった。続いて、6月1日付けの道新朝刊広告のページに「暮らしに影響深刻進む地球温暖化

読み書きはもちろん、音読を重視している私

によれば、NIEはどうだろう。

5月29日付け道新の朝刊に、M札幌「新聞音読で『脳力』」

という見出しの記念講演の記事が目に飛び込んできた。「子供の教育に効果大」という見出しある。

読み書きはもちろん、音読を重視している私



山田会長から認定書を伝達される実践校の代表たち

北海道NIE推進協議会独自認定校へ継続校▽小学幌、帯広市立帯広第五、市立美園、中学校札幌市立浦河東部▽山の手南、同百合が原、浦河町立浦河東部▽いの里東、同平岸、同簾舞、道教育大付属札幌、帯広市立帯広第五、市立美園

北海道NIE推進協議会独自認定校へ継続校▽小学校豊頃町立茂岩▽中学校札幌市立月寒、同発寒、岩見沢市立清園、別海、寿都

北海道NIE推進協議会独自認定校へ継続校▽小学校室蘭市立桜が丘、岩見沢

昨年度より6校多い41校が実践校の候補として推薦され、5月18日に東京で開かれた同財団の博物館・NIE委員会で正式に決まった。

05年度の実践校は次の通り。  
◇日本新聞教育文化財団認定校

北海道NIE推進協議会独自認定校へ継続校▽小学校

札幌市立日新、同

札幌市立茂岩▽中学校

札幌市立月寒、同発寒、

岩見沢市立清園

北海道NIE推進協議会独自認定校へ継続校▽小学校

札幌市立茂岩▽中学校

札幌市立月寒、同発寒、



# 「予想」から「調べる・確かめる」



## 新聞を活用した授業を早速実践する 芽登小の児童と野上教頭

「今日のニュースです。事故現場では、運行再開に向けて試験運転が行われました」

日直が『朝の会』で『今日のニュース』を発表するのですが、どうもうまく言えません。情報を自分のものにし、相手にわかるよう伝えるというのが苦手なのです。

そこで、昨年は「朝の10分間読書」をしていましたのですが、今回実践校に指定をいただいたことから、「朝の10分間新聞」に変えてみました。「朝10分で新聞に目を通す」という作業は、日常的にごく自然なことではないでしょうか。

そして、「今日のニュース」というコーナーも、

足寄町立芽登小教頭 野上 泰宏

「今日の私の気になつたニュース」としてみました。自分の選んだ新聞の中から、気になつた記事を見せながら紹介するというものです。

最初は新聞の一面向にらめっこしていました。子どもたちも、写真と目出しから「めくる」ようになりました。これは、自分が理解できる記事か「予想」をしているのです。わからない漢字や言葉が出てきても、まず「予想」をして読むようになりました。使える言葉を増やす過程で、「適当」は困りますが、「予想」をしてから「調べて」「確かめる」ということに私は注目しています。

まだ始めて半月ですが、今後「情報の加工」と「言葉の獲得」の面からN.E.の有効性を検証していきたいと考えています。

平成17年8月2日(火)  
3日(水)に、北海道十勝新聞教育研究会の主管で、全国新聞教育研究大會十勝・帯広大会を開催いたします。本来であれば、平成7年の帯広市開催に続く2度目の道内開催ですので、他都市開催が妥当なのかもしれませんが、十勝新聞研の組織体制に信頼を寄せられたことでもあり、意を決してお引き受けしたのです。

大會実行委員長  
若山 茂樹

## 自然体の実践発信

8月、帯広で全国会  
社編集長 松井正憲／  
日本経済新聞社相原吉

就職活動中の大学生が喫茶店で熱心に日経を読む姿をここ北海道でも目にする。

日本経済新聞社は小中高校を対象にしたNIE活動に協力するとともに、大学生の読者開拓にも力を入れている。大学の講義やゼミなどで日経の記事が使われることも多く、

## 「朝の10分間新聞」に手応え

「今日の私の気になつた  
ニュース」としてみまし  
た。自分の選んだ新聞の

日本経済新聞社は小中高校を対象にしたNIE活動に協力するとともに、

# 自分の「正解」 模索する一步

立つのは就職活動を目前にしながら「本当は何をやりたいかよくわからなさい」とこぼす声が増えてきていることだ。その結果として、企業側に就職したいとの自分の気持ちがうまく伝わらなかつたり、そもそも就職活動に出遅れてフリーターンになつてしまふケースもある。これも受験教育の弊害かもしれないが、今の大学生は「正解が一つしかない問題」を解くのはうまい。しかし、答えの方性が定まらず、何通りも答えるある問題にぶつかることで立ち尽くしてしまふ。就職を含めた人生にはただ一つの共通した解

は存在せず、何千通り、何万通りもの答えがある。一人ひとりが自分自身の「正解」を見つけださなくてはならない。

答えを見つけ出すのが不得手な今時の大学生には、授業で特定の新聞記事のコピーを配るのではなく、その日の新聞を丸ごと与え、一つの記事を選ばせる。毎日、新書一冊分以上の「活字」を届ける新聞。地元や日本、そして世界のニュースが所狭しと並ぶ。そこからただ一つの、自分が最も重要なと思う記事を選ぶ。小さな行為だが、自分自身の人生の「正解」を探す重要な一步になるだろう。

大会は、今次学習指導要領が4年目を迎えるには、一定の実践成果が問われている今日の状況を踏まえて、「学習意欲を喚起し、生きる力を育てる新聞教育の分析、活用、発信を通して」と

私どもの日常的な合言葉は「いつでも」「どこででも」「だれでも」が、各教

◆全国新聞教育研究大  
会の参加申し込み・問い合わせ先は、森田昌宏・  
大会運営事務局長（帯広第五中学校教諭、電話0  
155・34・5710  
ファックス 34・47  
0441・帯広第五中）。

の実践発信

しかしながら、道NIE推進協議会との恒常的な連携も含め、道内各地で活躍されている方々のご支援が必須の状況です。幸い、実践提案者として、道内から多くの発表をいただくことになりました。さらに多くの皆さんのご参加・ご支援を、お願いいたします。

教育を通して生きる力をはぐくむ有効性は、社会的認識の形成を媒体に確かな学力と豊かな心が育てられるという、まさに「楽しい学び」そのものであると考えています。

本大会は授業実践を基調にしていますが、このことは、十勝新聞研が発足以来、最重要視してきており、教室なくして研究はない……との思いを深くしつつ取り組んできたことです。「新聞活

科各領域等の目標達成に向けた授業実践を公開できることであります。ぜひ、私どもの実践をご覧いただいてご指導・ご助言をいただきたいと思ひます。併せて、十勝・帯広は基幹産業である農業の元気の良さが、子供たちも教師も、活性化する源であることを感じ取っていただきたいと思ひ記念講演を用意してございます。多くの皆様のご参加を、心からお待ちしております。

授業で特定の新聞記述のコピーを配るのではなく、その日の新聞を丸々と与え、一つの記事をはせる。毎日、新書一分以上の一連の「活字」を届ける新聞。地元や日本、そして世界のニュースが狭しと並ぶ。そこからた一つの、自分が最も興味だと思う記事を選ぶ。重要な一步になるだろう。

## 推進協総会

# 「役割高まるNIE」

## 「一石三鳥」実践発表も

5月28日に開かれた北海道NIE推進協議会では、主催者を代表して山田会長が「北海道のNIEは、少年期から青年期、そして成年期へ向かおうとしている。社会環境が急速に変化するなかで、文字を読む取り組みの重要性はますます高まっている」とあいさつ。文化の一翼を担うNIEの役割を強調した。

来賓の道教委や札幌市教育委、学校関係者、新聞社代表のあいさつの後、議事に入り、事務局が提案した全道各地でのNIEセミナー開催など本年度の活動計画や新役員が承認された。

総会に続いて、NIEに取り組む道内の5人の先生から報告と実践発表が行われた。

まず、今春米国のNIE事情を観察した函館水産高校の山本かおり教諭と、札幌市立月寒中の三

上久代教諭が報告。全米の小中学校のNIE実施が40%以上のことや、NIEを経験した子どもたちの国々を取り上げる地理の授業で、生徒たちに月に一度、「一ヶ月分の新聞を渡し、「読む」「要約する」の「一石三

NIE実践校の取り組みでは最初に、虻田高校のみ齋藤宏臣教諭が、世界の国々を取り上げる地理の授業で、生徒たちに月に一度、「一ヶ月分の新聞を渡し、「読む」「要約する」の「一石三

鳥」の効果を上げている活動などを発表。次に、北見市立西小の菅原巧教諭が、子どもたちの表現力やコミュニケーション能力を育てるよ

うと、毎日の朝の会で自分の「気になったニュース」を切り抜き、その理由を添え書きさせたり、国語の時間に新聞作りに挑戦させたりしている取り組みを報告した。

また、実践校として3年目に入った札幌市立発寒中の荒島晋教諭は、さまざまな形の新聞活用授業や壁新聞作りに加え、記事データベースも利用できる情報コーナーの設置など、生徒の情報活用能力を高めるための全校的な取り組みについて発表した。

り組みを報告した。また、実践校として3年目に入った札幌市立発寒中の荒島晋教諭は、さまざまな形の新聞活用授業や壁新聞作りに加え、記事データベースも利用できる情報コーナーの設置など、生徒の情報活用能力を高めるための全校的な取り組みについて発表した。

い合わせは北海道NIE推進協議会(電話011・210・5802)でも対応する。

締め切りは9月10日必着。表彰は「NIE週間」に行う。優秀作には図書カードなどを贈り、全国審査にも推薦する。

応募と問い合わせ先は、北海道NIE推進協議会(札幌市中央区大通西3、北海道新聞社内 電話011・210・5802)。

## 意欲的活動を紹介

函館で  
セミナー

道南地方でNIEに取り組む先生たちの交流の場である「第4回NIEセミナー函館」が6月18日、北海道新聞函館支社で開かれ、新聞を活用した授業や壁新聞作りなど、さまざまな実践が紹介された。

を報告した後、3人の先生が実践発表を行った。

本年度から実践校に指定された木古内町立鶴岡小の高木かず子教諭は、「新聞を活用してこんな授業をしたい」と題し、持ち上がりの複式学級の特色を生かした取り組みを披露。前年「新聞っておもしろいね」と言ってくれた子どもたちを拠りどころにしたNIEへの新たな意欲を語った。

道南の先生たちの実践発表が行われたNIEセミナー函館



の特色をより深く学んだりしている様子を報告した。最後に、学校内の組織としてNIE委員会を設けて

鹿児島で全国大会  
来月28、29日  
までの10年  
10年」をテーマにしたパネルディスカッションで、札幌市立月寒中の三

上久代教諭もパネラーの1人として登壇する。2日目は、かごしま県民交流センターに会場を移し、小、中、高校の校会が開かれる。参加申し込みは、大会種別の分科会や実践報告

## 編集後記

道南地方でNIEに取り組む先生たちの交流の場である「第4回NIEセミナー函館」が6月18日、北海道新聞函館支社で開かれ、新聞を活用した授業や壁新聞作りなど、さまざまな実践が紹介された。セミナーには小中高校や大学の先生ら約20人が参加。学校関係者に交じって、NIEに関心の深い新聞販売店主の熱心な姿も見られるなか、函館水産高校の山本かおり教諭が、函館市立白尻中の花田安司教諭は、道南のコンクールで上位入賞するな

を報告した後、3人の先生が実践発表を行った。本年度から実践校に指定された木古内町立鶴岡小の高木かず子教諭は、「新聞を活用してこんな授業をしたい」と題し、持ち上がりの複式学級の特色を生かした取り組みを披露。前年「新聞っておもしろいね」と言ってくれた子どもたちを拠りどころにしたNIEへの新たな意欲を語った。

道南の先生たちの実践発表が行われたNIEセミナー函館

の特色をより深く学んだりしている様子を報告した。最後に、学校内の組織としてNIE委員会を設けて

鹿児島で全国大会  
来月28、29日  
までの10年  
10年」をテーマにしたパネルディスカッションで、札幌市立月寒中の三

上久代教諭もパネラーの1人として登壇する。2日目は、かごしま県民交流センターに会場を移し、小、中、高校の校会が開かれる。参加申し込みは、大会種別の分科会や実践報告

朗読したり、新聞を活用して卒業論文を作りを通して、生徒た

会性を身につけたり、自分たちが住む旧南茅部町た。

文の指導をするなど、2年目の実践校としての多くの実践校としての多く取り組みを発表し

を報告した後、3人の先生が実践発表を行った。本年度から実践校に指定された木古内町立鶴岡小の高木かず子教諭は、「新聞を活用してこんな授業をしたい」と題し、持ち上がりの複式学級の特色を生かした取り組みを披露。前年「新聞っておもしろいね」と言ってくれた子どもたちを拠りどころにしたNIEへの新たな意欲を語った。

道南の先生たちの実践発表が行われたNIEセミナー函館

の特色をより深く学んだりしている様子を報告した。最後に、学校内の組織としてNIE委員会を設けて

鹿児島で全国大会  
来月28、29日  
までの10年  
10年」をテーマにしたパネルディスカッションで、札幌市立月寒中の三

上久代教諭もパネラーの1人として登壇する。2日目は、かごしま県民交流センターに会場を移し、小、中、高校の校会が開かれる。参加申し込みは、大会種別の分科会や実践報告

朗読したり、新聞を活用して卒業論文を作りを通して、生徒た

会性を身につけたり、自分たちが住む旧南茅部町た。

文の指導をするなど、2年目の実践校としての多くの実践校としての多く取り組みを発表し